

みずほマーケット・トピック(2014 年 5 月 30 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご覧ください。

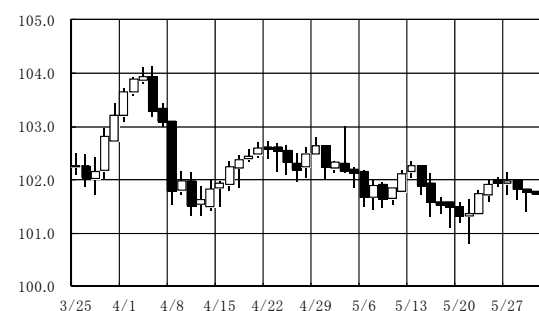
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は軟調推移。週初 26 日に 101 円台後半でオープンしたドル/円は、米英が休場となる中、終始小動き。翌 27 日は、米 4 月耐久財受注や 3 月 S&P/ケース・シラー住宅価格指数など、良好な指標が相次いだことで米金利が上昇すると一時週高値となる 102.14 円まで上昇したが、その後は調整のドル売りも入る中、102 円割れまで押し戻された。28 日にかけては、米金利の低下を背景にドル売りが強まりドル/円は 101 円台後半まで下落。さらに 29 日には、米 1～3 月期 GDP(改定値)が予想を超えるマイナスに転じたことや、10 年で 2.4%まで低下した米金利の動きを受けて、ドル/円は一時週安値となる 101.43 円まで下落。しかしその後は米金利が反発上昇する動きにドル/円も下げ幅を縮小。本日にかけては 101 円台後半で底堅く推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて下落する展開。週初 26 日に 1.36 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米英が休場となる中、動意に乏しい展開。27 日にかけてユーロ/ドルは一時週高値となる 1.3669 まで上昇するも、米 4 月耐久財受注や 3 月 S&P/ケース・シラー住宅価格指数などの良好な結果を好感したドル買いに 1.36 台前半まで弱含み。28 日は、独 5 月失業者数が市場予想に反して増加したことやユーロ圏 4 月マナーサプライ増加率の悪化を嫌気すると、来週の ECB 理事会での追加緩和期待が一層高まり、ユーロ/ドルは 1.35 台後半まで続落した。29 日は、欧州株価の軟調推移を背景としたユーロ/円の下落に伴って、ユーロ/ドルも一時週安値となる 1.3586 まで下落。本日にかけても来週に ECB 理事会を控え、1.36 近辺で上値重く推移している。

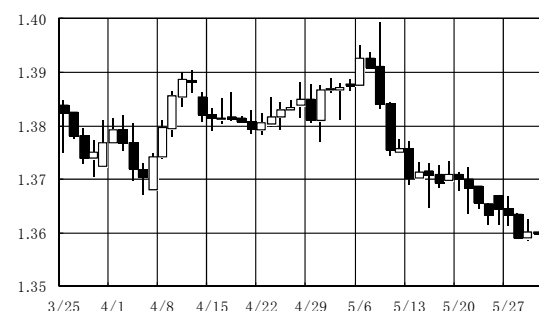
今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週			
		5/23(Fri)	5/26(Mon)	5/27(Tue)	5/28(Wed)	5/29(Thu)
ドル/円	東京9:00	101.79	101.98	101.91	101.99	101.73
	High	102.02	102.05	102.14	102.03	101.86
	Low	101.59	101.84	101.73	101.64	101.43
	NY 17:00	102.01	101.94	101.98	101.84	101.79
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3653	1.3629	1.3652	1.3634	1.3593
	High	1.3658	1.3655	1.3669	1.3638	1.3626
	Low	1.3616	1.3615	1.3612	1.3587	1.3586
	NY 17:00	1.3634	1.3646	1.3634	1.3591	1.3602
ユーロ/円	東京9:00	139.00	138.94	139.11	139.03	138.26
	High	139.04	139.10	139.36	139.10	138.52
	Low	138.59	138.74	138.84	138.30	137.98
	NY 17:00	139.04	139.04	139.05	138.38	138.44
日経平均株価		14,462.17	14,602.52	14,636.52	14,670.95	14,681.72
TOPIX		1,180.44	1,194.69	1,195.11	1,198.17	1,200.68
NYダウ工業株30種平均		16,606.27	-	16,675.50	16,633.18	16,698.74
NASDAQ		4,185.81	-	4,237.07	4,225.07	4,247.95
日本10年債		0.59%	0.59%	0.59%	0.58%	0.58%
米国10年債		2.53%	-	2.51%	2.44%	2.46%
原油価格(WTI)		104.35	-	104.11	102.72	103.58
金(NY)		1,291.90	-	1,265.70	1,259.70	1,257.10

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週にかけて、米国では6月6日(金)に米5月雇用統計が発表される。4月は非農業部門雇用者数が前月比28.8万人増と3月の同20.3万人から大幅増となった。冬場の雇用情勢を振り返ると、寒波に伴う雇用鈍化は12月(同8.4万人増)や1月(同14.4万人増)に集中し、2月、3月は21万人程度の雇用増となった。4月は大きく反発したが、今後はそれまでのトレンドである20万人前後の雇用増ペースに戻るとみられる。先行計数を確認しておく、5月のニューヨークおよびフィラデルフィア連銀製造業景気指数の雇用項目は改善しているほか、新規失業保険申請件数も低水準を維持しており、大きく崩れる心配は少ないだろう(市場予想の中心:前月比21.8万人増)。失業率に関しては、4月は6.3%と前月の6.7%から大きく低下した。しかしながら、失業率との相関が強いコンファレンスボード消費者信頼感指数の雇用DIは、過去数か月間は改善ペースが鈍化しており、5月の雇用統計における失業率は小幅に上昇する見通しである(市場予想の中心:6.4%)。そのほかには、今晚に4月新築住宅販売があるほか、27日(火)に4月耐久財受注、30日(金)には5月シカゴ購買部協会景気指数の発表などがある。要人発言では、28日(水)にロックハート・アトランタ連銀総裁やダドリーNY連銀総裁、30日(金)にはジョージ・カンザスシティ連銀総裁の講演などある。
- 欧州では5日(木)にECB理事会が予定されている。足許で市場は少なくとも主要リファイナンスレート及び貸出ファシリティレートの15bpの利下げを完全に織り込んでおり、もはや今会合でのゼロ回答は許されない情勢である。注目は緩和の内容であるが、筆者は主要リファイナンスレート及び貸出ファシリティレートの引き下げ、現在期限を延長して実施中の固定金利・無制限供給オペの再延長、+ α があるとすれば証券市場プログラム(SMP)の不胎化オペ中止のパッケージになるとみる。市場コンセンサスはマイナス金利の導入を予想しているが、リスクに対してリターンが小さいこと、今後その他のオプションを実施する上での障害となる可能性があることから、今回は見送られると予想する。上記の結果となれば「噂で売って、事実で買い」のユーロ反発が見込まれるが、記者会見では残りの緩和オプションについて踏み込んだ発言をするなど、市場の緩和期待を繋ぎとめるために心血を注ぐはずであり、このためそうしたユーロの買い戻しは一時的なものにとどまると見ている。このほか、3日(火)にユーロ圏5月消費者物価指数、4日(水)にユーロ圏1～3月期GDP改定値等の発表が予定されているがECB理事会を控えて反応は限定的となろう。

	本 邦	海 外
5月30日(金)	-----	・米4月個人所得・消費 ・米5月シカゴ購買部協会景気指数
6月2日(月)	・1～3月期法人企業統計	・米5月ISM製造業景気指数
3日(火)	・5月マネタリーベース	・米4月製造業新規受注
4日(水)	-----	・米5月ADP雇用統計 ・米4月貿易収支 ・米5月ISM非製造業景気指数 ・米地区連銀経済報告(米ページブック)
5日(木)	-----	・ECB理事会(フランクフルト)
6日(金)	・4月景気動向指数(速報)	・米5月雇用統計 ・米4月消費者信用残高

【当面の主要行事日程(2014年6月～)】

日銀金融政策決定会合(6月12～13日、7月14～15日、8月7～8日)
 米FOMC(6月17～18日、7月29～30日、9月16～17日)
 ユーロ圏財務相会合/EU・経済財務相理事会(6月19～20日、ルクセンブルク)
 EU首脳会議(6月26～27日、ブリュッセル)
 欧州中銀理事会(7月3日、8月7日、9月4日)

以 上

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuho-bank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「魅せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか?～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらず～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か?～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イエレンFRB議長議会証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか?
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ)。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～
2014年4月16日	米為替政策報告書～滲み出るドイツ及びユーロ圏への不満～
2014年4月15日	説得力に欠けるユーロ高牽制～通貨政策への傾斜を考える～
2014年4月14日	アベノミクスを巡る国内外の温度差～豪州出張を終えて～
2014年4月11日	週末版
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト?～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当に年内までか?～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに預いた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か?～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見通し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10-20%～
2014年1月21日	BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について
2014年1月20日	最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について
2014年1月17日	週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)
2014年1月16日	燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態
2014年1月15日	円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～
2014年1月14日	潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～
2014年1月9日	週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に慣れ過ぎているECB。政策変更のトリガーが視界不良に～)
2014年1月8日	ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～
2014年1月7日	2014年の円相場の見通し、論点おさらい
2013年12月27日	週末版
2013年12月26日	2013年を終えて～ブラザ合意以来の動きに挑む2014年～
2013年12月20日	週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)
2013年12月19日	FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～
2013年12月18日	ユーロ圏労働コストから聞えるデフレの足音
2013年12月17日	「アスムセン」なき政策理事会」を考察する
2013年12月16日	最近の相場をどう解釈すれば良いのか
2013年12月13日	週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウェイト問題などについて)
2013年12月10日	米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～
2013年12月9日	米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて
2013年12月6日	週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)
2013年12月5日	直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感
2013年12月4日	緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～
2013年12月3日	103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える
2013年12月2日	ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～
2013年11月29日	週末版
2013年11月27日	ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～
2013年11月26日	ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて
2013年11月25日	ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか